

☆ お詫びと訂正 ☆

本誌掲載の論文に誤りがありましたので、下記のとおり訂正いたします。

- ◎第68巻第6号 p.26 (750)～p.41 (765) 掲載の「線維筋痛症に伴う疼痛を有する患者に対するデュロキセチン塩酸塩特定使用成績調査—最終解析結果報告—」(シオノギファーマコピジランスセンター株式会社・中澤暁夫ほか)の論文中、  
 ・ p.29 (753) 本文右段13～15行目

【誤】

24.5% (78/319例)であり、主な疼痛治療薬は、プレガバリン (33例)、ワクシニアウイルス接種家兎炎症皮膚抽出液 (19例)であった。

【正】

56.1% (179/319例)であり、主な疼痛治療薬は、プレガバリン (81例)、ワクシニアウイルス接種家兎炎症皮膚抽出液 (46例)であった。

- ・ p.31 (755) 表1 安全性解析対象症例の患者背景

【誤】

(表のつづき)

患者背景		症例数	(%)
(線維筋痛症の臨床症状のつづき)			
精神症状	睡眠障害	179	56.1
	不安感	21	6.6
	抑うつ	24	7.5
	焦燥感	1	0.3
	集中力低下	6	1.9
合併症	なし	115	36.1
	あり	204	63.9
前疼痛治療薬	なし	241	75.5
	あり	78	24.5

【正】

(表のつづき)

患者背景		症例数	(%)
(線維筋痛症の臨床症状のつづき)			
精神症状	睡眠障害	179	56.1
	不安感	21	6.6
	抑うつ	24	7.5
	焦燥感	1	0.3
	集中力低下	6	1.9
合併症	なし	115	36.1
	あり	204	63.9
前疼痛治療薬	なし	140	43.9
	あり	179	56.1